

真のきよさへの招き

マルコによる福音書七章17〜23節

すべて外から人に入って来るものは、人を汚すことができないことが分らないのか。(18)

人から出て来るもの、これが人を汚す。(20)

当時のユダヤ人たちは、宗教的な汚れを招く食物を食べないように細心の注意を払っていました。これに対して主イエスは、何を食べても、何に触れても汚れることなどなく、それらの外的なものに対しては人間は自由であると宣言されました。それよりも、本物のきよさを求めるようにと主は言われます。人からきよさを奪うのは、外からのものではなく人の中から出てくるものです。人間の尊厳性を全く破壊してしまうほどの汚れが、私たちの内に潜んでいるからです。外から口に入るもの、そのことをしきりに気にしている人々に、自分の内から発する汚れに対してこそ、より鋭いまなざしを向けるようにと主イエスは言われたのです。「人を汚すものの本質を見つめよ」と言われる主イエスは、表面的なきよさではなく、真のきよさへと私たちを招いておられるのです。